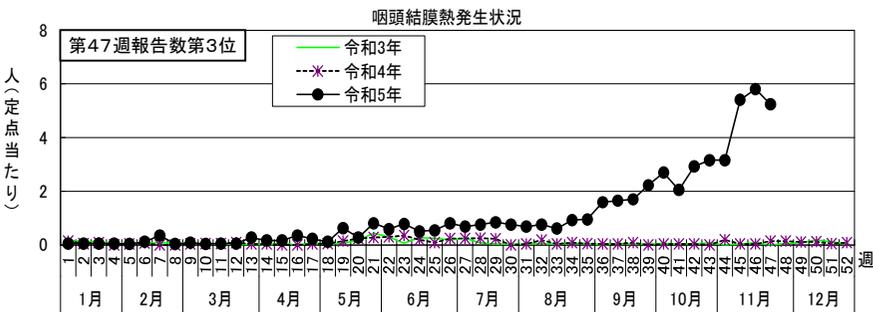
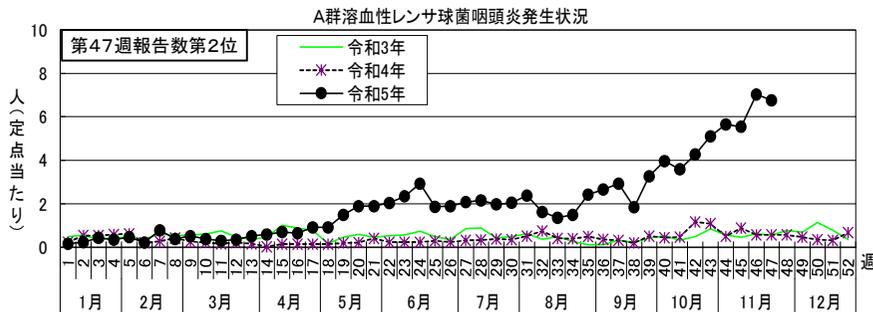
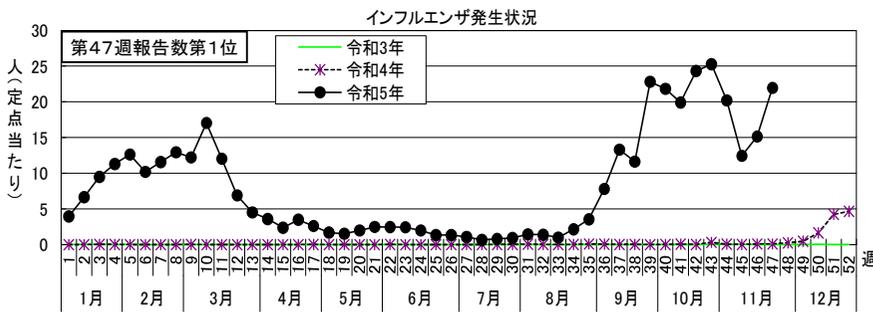


# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年11月20日（月）～令和5年11月26日（日）〔令和5年第47週〕の感染症発生状況

第47週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 咽頭結膜熱でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は21.98人と前週（15.16人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は6.76人と前週（7.03人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は5.24人と前週（5.81人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



## 梅毒の報告数が過去最多に！～先天梅毒にも御注意を～

川崎市における梅毒の報告数は、今年は第47週（11月20日～26日）までにすでに計116件となり、現在の調査方法となった平成11年第14週（4月5日～11日）以降、過去最多となりました。

梅毒は主に性的接触により感染し、初期は潰瘍や皮しん等の皮膚症状が出現しますが、治療せずに放置すると、神経症状等を呈し死に至る場合もあります。

また、妊婦が感染すると、流産、死産となる場合や、胎児が梅毒に感染した状態で生まれる（先天梅毒）可能性があります。いずれも妊婦に対する適切な抗菌薬治療で防ぐことができますので、感染が疑われる場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

### 先天梅毒とは？

#### 【症状】

- 出生時は無症状のことが多い。
- 早期先天梅毒（生後数か月以内に発症）  
皮膚症状、肝脾腫、骨軟骨炎等
  - 晚期先天梅毒（生後約2年以降に発症）  
実質性角膜炎、感音性難聴、歯牙変形等

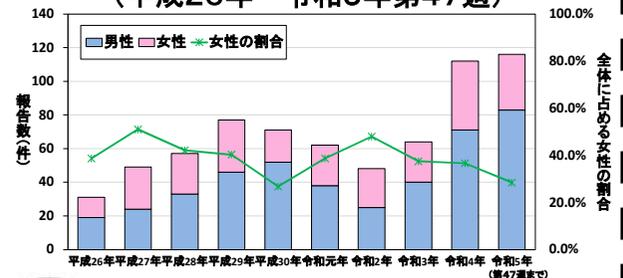
#### 【予防】

定期的な妊婦検診、疑わしい症状がある場合の検査、早期治療、妊娠中の安全な性交渉

#### 【治療】

抗菌薬治療

### 川崎市における梅毒報告数 (平成26年～令和5年第47週)



川崎市においては、令和5年に先天梅毒の報告はありませんが、全国では報告が相次いでおり、現時点での報告数は平成11年以降最多となっています。